

Real Wine Guide

リアルな視点と本音で綴る、
ワインガイド

リアルワインガイド
1800Yen 2008 冬 第50号

20²⁰⁰⁸
winter

Saint-Julien

Château Beychevelle シャトー・ベイシュヴェル



現在、そして未来。
自身の役割を明確なコンセプトで書く

おそろしいほどまでの広大な敷地に広く美しい庭園、広く美しいシャトー。このうっとりするような外観を持つベイシュヴェルは広く普及している。ブランドイメージは安定し、価格もお手頃ワインにあるから。個人的にも昔はつい自分とお世話になった。しかし品質面を見ると決してトップシャトーのレベルにはないのが正直なところだ。それなりの複雑性、それなりの凝縮感、ソフトな飲みやすさ、親しみやすい味わいとスタイルのそれなりのポルドー。これがベイシュヴェルの愛好家からのイメージだろう。しかし今後は手厳格な品質を求めたい。それがいい。

それはまず96年にここに赴任した経営者のフィリップ・プラン（写真）の指揮の下、シャトーが着実に改善を進めているからだ。メインは畑。ブドウの質の向上のために土壌を改良し、収量を落とす。殺虫剤の使用を止めたりと様々な処置を施し始めた。また昨年には広大な畑全てで土壌調査を行い、今後は異なる土壌の区画別の性質にあった品種を植え替えていく予定だ。またグランヴァンの比率も年々下げている。現在はファーストが55%、セカンドが45%で、毎年約1万本ずつセカンドを増やしている。

次はフィリップ・プランの現シャトーにおける状況分析の確実性が挙げられる。現在のベイシュヴェルの立ち位置がどうなっているのか、今後の立ち位置をどう考えるのか。つまりラス・カースの後ろにいることは百も承知している。トップレベルの品質ではないことを十二分に理解している。しかしトップシャトーは徹底的にコストをかけ、その品質は向上するが価格もアップする。ベイシュヴェルは決して現状に甘んじているわけではないが価格を押し上げたくはないのだ。そしてベイシュヴェルのようなポジションにいるワインもまた重要な役割を担っていることを理解している。その上で、今後この立ち位置であるべきであり、トップの品質で高級ワインを造るのではなく、あくまで品質向上を努めながらも価格をお手頃であり続ける。それを達成しているのだ。確かに昔のうちのワインが全て100%ワインを目指す必要はない。それぞれの役割分担が必要だ。そして本質はその役割をキチンと理解した上で担っているのか、何も考えずにたまたまそうなっているのか。ベイシュヴェルは理解している。



広大なシャトーに広がる庭園。敷地から2km以内にあるサンピエール村が望めるが、丹精こめて公園のような広い庭園も全てシャトーの土地

敷地から1km以内のシャトーの畑

96年10月10日の畑の様子。土壌を調べ

032

033

Saint-Julien

サン・ジュリアン

Château Beychevelle

今年まで **89+** 歴年シリアル **91** 最新評価 2011~2027



シャトー・
ベイシュヴェル '05

予想される実売価格 9,000円

近年のベイシュヴェルに比べるとぐっと複雑性を帯びた第一番。優しい果実に大地と木のこの、染み入るような香り。深引きは複雑もない。ちょっとなめしもある。全体的にフラットに飲み渡るきれいな酒質はどれもエレガントで、奥に秘めた力強さもある。よく熟したタンニンに酸度は低めの、力まかせなところは一切ない。居心地の良い風味と液体濃度。ひたすらエレガント。00年に並び、このシャトーの最高傑作かも。徳丸真人 (07年10月現在)

Château Beychevelle

今年まで **—** 歴年シリアル **87+~88+**

シャトー・
ベイシュヴェル '06

ほどほどに熟した甘いベリー香。複雑性は少ないが適合性の良い全体の雰囲気。今は脚のキレが少し強く、中域のトーンの香りはやや華美的なもの。甘く、メディアムボディで、優しい。中間の味は結構しっかりしているが、その間中間部で酒質にスキがちらほら。やや水で薄められた感はあるが、味の乗りはとて良い。若い風味などのイヤな要素はないので快活に楽しめる。エレガントといえないまでも、物足りなさも覆る。バランスはとて良い。徳丸真人 (07年10月現在)